

話題の「サス学」私立学校で本格導入 香川誠陵中学校・高等学校の取り組み

SDGs × 探究型学習



「サス学」は三井物産株式会社の登録商標です。

「サス学」とは、社会で起きていることをジブンゴととらえ、サステナブル(持続可能)な未来をつくるための知恵や価値観を育む探究型アクティブラーニング。ネクスファ(千葉県柏市)が開発し、三井物産(株)とともに育ててきた「新しい学びのカタチ」であり、すでに多くの学習塾に導入されている。その「サス学」を私立学校として初めて本格的に導入し、中学校での特別授業やクラブ活動(エコ・ボランティア部)などに取り入れているのが、香川誠陵中学校・高等学校だ。学校教育において「サス学」をどのように活かすのか、「サス学」への期待や今後について、光田大介校長に話を伺った。

香川誠陵中学校・高等学校
光田 大介校長

「サス学」で得た気づきが、未来の選択肢を増やす。

香川誠陵中学校では、2019年10月に大東尚学館塾長でサス学認定講師の塩沢茂樹先生を講師として招き、2年生を対象に「サス学」の特別授業を実施。その後、私立学校として初の本格導入を決め、現在は総合やロングホームルームの時間を使い「サス学」の授業を行っている。光田校長は、「サス学」のどこに魅力を感じ、どのような可能性を見出したのだろうか。

答えがひとつじゃないところが面白い 他の授業では得られないものがある

「サス学」のどのようなところに魅力を感じたのですか。

「サス学」のことを知ったのは2年ほど前になります。2020年度から実施される新学習指導要領にSDGsが盛り込まれるということもあり、「サステナブルな社会を創る力を育むことを目的とした新しい学び」というものに興味を持ったのですが、何より、答えがひとつではないところがいいと思いました。「これが正解」というものがないので自由な発想が生まれやすく、チームでひとつのテーマにつ

て調べたり、話し合ったりするスタイルもいい。テーマも日本国内だけではなく、世界を視野に入れた環境問題や持続可能な社会づくりなど幅広い。これから先の社会をつくっていく今の中学・高校生が将来を考えるときに必要な視点がいっぱい盛り込まれていて、これはぜひやりたい、やるべきだと感じました。

ほかの教科の授業では得られないものがあると。

はい。本校は中高一貫の私立学校なので、多くの生徒が大学進学を志望し、難関校合格を目標とします。学校としては、その目標達成に向けてできる限りの支援をしますが、それだけでいいとは思っていません。大学進学というひとつの価値観に縛られることなく、芸術系に進む生徒や、海外志向の生徒がいてもいい。自ら学びたいことを発見し、学びたいことが学べる環境をつくり、将来の選択肢を増やすための支援も必要だと考えています。「サス学」もそのひとつで、生徒の視野を広げ、新たな興味、関心を引き出すために役立つと期待し、導入を決めました。

「サス学」は小学生を対象に開発されたものですが、その点は問題にならなかったのでしょうか。

やるからには、中学・高校生にふさわしい内容でという思いもあり、「サス学クラウドサービス」を提供しているジェイシー教育研究所のご協力を得て、少しアレンジを加えています。現在、「サス学」の授業は中学生を対象に行っ

ており、他に、中学・高校生が合同で行うクラブ活動のひとつ、エコ・ボランティア部でも活用しています。こうした本校の取り組みをフィードバックすることで、今後の「サス学」の発展につながればうれしいです。

保護者からの期待も大きく 校内の「サス学」講師を増やしたい

「サス学」の導入について、保護者の理解は得られましたか。

PTAの役員会で「サス学」を紹介し、生徒にSDGsの視点を持たせたいという話をしたところ、思った以上の賛同を得ることができました。特に、幅広いテーマで一方的に講義を聞くのではなく、生徒自身が考え、グループワークが行われるという点が保護者にも好評でした。皆さん、教科学習も大事だが幅広い知識や視野を身につけることも必要だとお考えで、期待していただいていると思います。導入から1年たちますし、「サス学」の授業を受けている生徒の保護者に、「家庭で環境問題やSDGsの話題が出ることはないか」「子どもに何か変化は見られないか」など、ヒアリングできればいいのですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、そうした機会がつかれていないのが残念です。



瀬戸内海を眺望する丘にある香川誠陵中学校・高等学校

生徒の自由な発想と、気づきを引き出す「サス学」授業

2021年3月、中学校1年3組で行われた特別授業。この日のテーマは「グリーンパワー！～エネルギーの素さがし～」。エネルギーとは何か、どうやったら発生するか、このまま電気を使い続けていたら地球はどうなるのか、基本的な知識を学びながら、身近でできる電力づくりのアイデア出しへ。エネルギー問題を「自分ごと」として話し合う生徒たちの表情は皆いきいきしていた。



授業を受けた
1年3組の生徒さん

以前は環境問題などにあまり関心はありませんでしたが、「サス学」の授業でいろいろなことを知って、とても身近なことだと思えるようになりました。今日のエネルギーの話では、スクールバスの振動を思い出して、乗り物の振動で発電ができるのではないかと考えました。「サス学」は普段の授業とは全然違って楽しいです。自分のことだけでなく、身の回りのことや、世界に関わることを考えるのは、とても大事なことだと思います。



「サス学」は2020年の秋に部活で体験しました。「食」をテーマにした内容で食糧廃棄量の多さや、食料自給率が低いことに驚きました。その後、フードバンクやフードドライブのことを調べて、香川県内で増やしていくにはどうしたらいいかを考えたり、子ども食堂について調べて、本当に必要とする人に確実に届けるための仕組みを考えたり、それぞれが興味のあることに取り組んでいます。普段の授業と違い「サス学」ではいろいろな意見が聞けるので、それが自分の考えを深めたり、新しい発想が生まれたりして楽しいです。他の人の考えを知るのはいいことだし、話し合うことですぐ記憶にも残ります。他の授業でも話し合いなどができればもっと興味もわくし、理解も進むので、そういう時間がつくれたいと思います。



エコ・ボランティア部に所属する
高校2年の生徒さんたち



生徒が自分の将来を考えるときの 価値基準にSDGsが加わるように

教員になって20年になりますが、政治・経済・社会はもちろん、教科書の内容、受験の仕組、子どもの様子、地域社会など、学校教育に関わることも大きく変化しています。当然、教員の意識も変えていく必要がある。そう感じていた時に「サス学」に出会いました。本校での導入に向けてすぐに「サス学」講師の認定を受けましたが、生徒の意見、考えを引き出すのは予想以上に難しい。と同時に、とても面白いです。まったく予想していなかった意見が出ることもありますし、それはちょっと、と思う意見もあります。しかし、どれも間違いではないので、すべて肯定的に受け止め、意見が言いやすい雰囲気を作るよう心がけています。

生徒には、自分の将来を考えるときの価値基準として、給与や福利厚生、仕事内容、やりがいなどとあわせて、SDGsの視点を持ってほしい。「サス学」が、そのきっかけになってくれると思います。進学して、大学卒業後にどのような職業・会社を選び、どのような人生を送るかはわかりません。しかし、この学校で学んだこと、身に付けたことがその選択の根拠として確かなものであってほしい。たとえば高校卒業から10年後、地域社会や地球環境の問題ともしっかり向き合える人生を歩んでいるように、「サス学」を通して、幅広い知識や体験を与える努力をしていきたいと思っています。



教員として初めて
「サス学」講師の認定を受けた
入試広報部長 垣本 俊幸教諭



持ちました。何に関しても、やらずに後悔するより、いいと思うものは何でもやってみようという考えです。やってみてうまくいかなければ軌道修正するなり、撤退するなり、そこでまた考えればいい。生徒にもそういう生き方をしてほしいと思います。命の危険や生活に関わることはともかく、失敗してもやり直せる、いつでも軌道修正できるようなことなら、どんどんチャレンジしていくべきだと思っています。

いいと思うものは何でもやってみる 「サス学」を通して新たな取り組みも

「サス学」自体は、これまで通り中学生を対象に授業に組み込んでいくつもりです。ほかに、身近な事例を学ぶ機会として地域の企業などとの連携ができないかと考えています。県内にもSDGsに熱心に取り組んでいる企業があり、生徒が学べることも多いと思います。コロナ禍ということもあり、今は積極的にには動きませんが、時期を見て取り組みを進めていきたいと思っています。

サス学クラウドサービスSGX

検索

「サス学」の知識・技術をはじめ、授業で利用する教材やアイデア、講師たちのコミュニケーションの場を提供します。



詳しくは、
右記QRコードより
ご確認ください!

ジェイシー教育研究所

